

2. 骨粗鬆症の治療目標

Treatment goal in osteoporosis

山内 美香・杉本 利嗣

Mika Yamauchi(准教授), Toshitsugu Sugimoto(教授) / 島根大学医学部内科学講座内科学第一

key words

骨粗鬆症
治療目標
骨密度
骨折

海外では骨粗鬆症治療における「Goal-directed treatment」の方針が報告されている。米国では骨粗鬆症治療域を脱することを治療のゴールとし、そのための治療目標として、骨粗鬆症治療の開始理由が骨密度低下の場合は、骨密度Tスコア >-2.5 、そしてFRAX[®]が理由の場合は、10年間の主要骨粗鬆症性骨折リスク $<20\%$ 、大腿骨近位部骨折リスク $<3\%$ が提案されている。今後、わが国独自の治療目標の設定が待たれる。

はじめに

骨粗鬆症の治療目的は、骨粗鬆症性骨折の防止である。骨粗鬆症性骨折は骨格機能を著しく低下させることから、骨粗鬆症治療により骨折を防止し、骨格機能を維持することにより、日常生活動作（activities of daily living：ADL）や生活の質（quality of life：QOL）を良好に保つことが¹⁾、骨粗鬆症治療の目的である。

効率よく骨折抑制効果を得るためには、骨折リスクの高い例を抽出し治療を開始すること、そしてエビデンスに基づいた薬剤選択を行うことが重要である。わが国では、骨粗鬆症診療の指針となる「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版」において¹⁾、薬物治

療開始基準が示されているが、骨粗鬆症治療のゴールについてわが国独自の設定はない。一方、海外では骨粗鬆症治療における治療目標（treat-to-target）を掲げた「Goal-directed treatment」の方針が報告された²⁾。本稿では、骨粗鬆症の治療目標について概説する。

骨粗鬆症治療の目的

骨および軟骨とそれを繋ぐ関節からなる構造体は骨格を形成し、身体の支持機能を担う。骨粗鬆症性骨折は、骨格によるこの身体の支持機能の低下や疼痛をきたし、それに引き続く運動機能障害によりADLやQOLを低下させる。さらに骨格は身体の諸臓器を保護

する役割を担うことから、骨粗鬆症性の骨折により諸臓器の機能障害も生じることとなる¹⁾。よって、骨粗鬆症治療は骨の強度を維持し、さらには高めることにより、骨格全体の機能を維持し、運動機能のみならず、諸臓器の機能維持にもかかわる。つまり骨粗鬆症の治療の目的は骨折予防であるが、それに伴う良好なADLとQOLの維持に裏打ちされた健康寿命の延伸を目指している。

骨粗鬆症治療のゴール

わが国の骨粗鬆症診療において、骨粗鬆症の治療率および治療継続率が低いことは解決すべき最も重要な課題である。治療率や治療継続率を改善する